



法人税5%減税？

法人税の税率を5%下げることが菅首相が指示したそうです。皆さんはご自分の家計を考えたとき「所得税が5%引き下げられたら」と思い、会社も5%法人税が下がると儲けが増える？と思うでしょう。でも、全く違います。

会社を家庭とみなしてサラリーマン並みの税がかかるとするとどうなるでしょうか？年収400万円＝売上だとします。その場合、サラリーマンは給与所得控除が134万円あり、扶養家族控除など合わせて仮に170万円控除があるとします。この控除額170万円はサラリーマンの「必要経費」と云うことになっていますが、実際には、それだけでは生活できません。残りの230万円も生活費なのですが、それに税がかかります。所得税と住民税を合わせると20%位でしょうか？教育ローンに頼ることになったりして家計は赤字でも、税がかかります。ですから、個人の場合、税が5%引き下げられると家計は助かります。

それで、法人税が5%下がると外国企業との競

争力もつくと思うかも知れません。でも、法人税の仕組みは全く違うのです。

売上400万があったとすると、その売上の為の原材料費、労賃、動力費、固定資産税等の必要経費を除いたものが経常利益で、それに法人税がかかります。つまり、「利益が出る出ない」に法人税は関係ないし、競争力も関係ないのです。そして、税を払った残りは株主に配当されたり、内部留保(家計の貯金)になります。ですから法人税を下げると株主の取り分が増えます。そこから賃金には回しません。更に、赤字なら法人税はかかりません。

法人税を5%引き下げる等で5800億円減収となりますが、それを社会福祉や労働者保護に回した方が日本の景気は良くなると思います。

日本の法人税率が諸外国より高いと宣伝されていますが、社会保険に対する企業負担も合わせて考えると日本の企業の負担率は高くないのです。

皆さんはどう思われますか？



能登半島 大沢集落の間垣

九月の日本美術会の写生旅行で能登半島の大沢という集落で写生しました。この集落は日本海に直面し、冬はシベリアからの北西の冷たい季節風が吹き付けます。昔は海岸沿いの道はなくて舟運が頼り。冬はその季節風で舟運が途絶え陸の孤島となったそうです。その冬の季節風と雪から家を守る為に設けられたのが「間垣(まがき)」です。絵にあるように海岸に向かって高く聳えています。